

## 採卵鶏における技術指針のポイント

### 1 旧指針からの主な変更点について

#### （共通事項）

- 【実施が推奨される事項】と【将来実施が推奨される事項】とに区別して標記。  
なお、現時点では、各項目についての目標年度は定めない。
- チェックシートは1種類から2種類になった。（他の畜種並み）  
技術的な指針（旧チェックシート）と快適な状態であるかのチェックシート（新）
- 輸送と安楽死の指針を追加した。

#### （個別事項）

- ビークトリミングの実施日は10日以内から、可能な限り若齢で実施することに修文。
- 誘導換羽については変更なし。なお、24時間以上の絶食を伴う強制換羽については、旧指針でも推奨されていない。
- 種鶏の飼養管理については削除。本指針の対象は、初生ひなから採卵終了後に出荷するまでが対象。なお、地鶏は準用する。
- 鶏舎の構造や飼養方式別のメリット・デメリットは記述しない。また、1羽当たりの飼育スペース等、具体的な数値は削除した。
- 付帯設備については、将来実施が推奨される事項として記載。（Q&A 参照）

### 2 指針において、特に留意してほしい事項

- 観察・記録の重要性
- 羽つき防止の対応（ビークトリミング）
- 誘導換羽について
- 鶏舎の構造、飼養方式と留意すべき事項
- 鶏舎の環境、特に換気や照明
- アニマルウェルフェアの状態確認、測定指標のポイント